

2013年9月3日発行(13-3号)

一般社団法人日本社会福祉学会

## 中国・四国地域ブロック会報

発行者: 中国・四国地域ブロック担当理事: 横山正博(山口県立大学)

広報担当役員: 片岡信之(四国学院大学)

木村敦子(広島文教女子大学)

事務局: ノートルダム清心女子大学人間生活学部 杉山博昭

岡山市北区伊福町 2-16-9

ホームページ: <http://www.socialwork-jp.com/csssw/index.html>

### I 夏のご挨拶

例年になく猛暑日の連続の夏です。一方で、中国・四国地方に限っていえば、島根・山口と大雨により甚大な被害にみまわれた地域もありました。被害に遭われた地域住民の方々には心よりお見舞い申し上げます。わたくしが所属している山口県立大学では、被害のあった萩市須佐地区、山口市阿東地区にボランティアバスを運行して、学生教員ともどもボランティア活動を行ってきたところです。また、後ほどにも報告がありますが、今年度のブロック大会を7月6日に徳島文理大学、徳島大学を引受校として開催しました。ご尽力いただきました、大会長富澤彰雄先生、事務局長岩城由幸先生、担当役員佐々木隆夫先生をはじめ、会員スタッフ、学生スタッフのみなさまに厚くお礼申し上げます。

さて、会報第3号をお届けします。今年度より、会報も本格的に電子メールを活用してのお届けとなります。迅速な情報提供と気軽な交流の場として活用していただければ幸いです。特に、本号より内容をより充実させるために、会員のリレーエッセイをお届けすることとなりました。先従隗始ということで、聖カタリナ大学の高杉公人部会委員にお願い致しました。次は、高杉会員よりリレーされた会員におかれては、よろしくお願ひします。第一線の現場でご活躍の会員の実践経験を踏まえたエッセイも充実したいと思っております。

8月10日、首都大学東京秋葉原キャンパスで理事会が行われました。四谷福社会議室が事情により閉鎖されたためです。主な議題は、事務局業務の外部委託、次期代議員選挙及び理事候補者選挙実施についてです。来年度から事務局業務の外部委託がすでに決定され、5月の全国総会でも承認されたところです。今この準備を進めているところです。次期代議員及び理事については、これまで秋季大会時に改選されることとなっておりましたが、次期からは春季大会時に改選されることとなります。これにともない10月中旬には代議員の選挙、2月上旬には理事候補者の選挙がおこなわれる予定です。投票率アップにご協力下さい。

話題に上ったことの一つに会員数の減少があります。8月6日現在、全会員は5,119名です。中国・四国ブロックは439名で、8.9%を占めています。今後団塊世代の定年退職にともなう退会により、5,000人を割ることは必至であろうということです。会員数の減少はそのまま学会の財政問題にも影響します。みなさまにおかれましては、積極的に入会についてお知り合いにお勧め下さいますようお願い致します。

また、今年度よりブロック配分の予算が20万円増額されました。については、ブロック活動を活

性化させて行くための新規事業などを展開していく必要があります。具体的なことは、部会委員会で進めて参りますが、ご意見等があればぜひとも事務局までお寄せ下さい。

まだ暑い日々が続きそうですが、くれぐれもご自愛下さい。

(中国・四国地域ブロック担当理事 山口県立大学 横山正博)

## II 第 45 回地域ブロック大会を終えて

去る 7 月 6 日に、日本社会福祉学会中国・四国地域ブロックの年次大会である第 45 回徳島大会(大会長：富澤彰雄・徳島文理大学教授)が徳島市の「ふれあい健康館」で開催されました。当日は晴天に恵まれたこともあり、来場者が増えることは予想できましたが、反面、スタッフが熱中症になってしまうのではないかと心配するくらいの暑さでした。また、今回の大会事務局は、徳島大学と徳島文理大学が共同して行い、当日学生スタッフも両校からお願いすることができました。

今回の大会では、学生(学部生、院生)の入場料を無料にしたこともあり、内容に興味のある学生が多数参加し、結果として 100 名を超える入場者数になりました。来場して下さった皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

さて、当日のプログラムについて簡単に記載していくと、9 時 30 分より開会式が行われ、富澤大会長よりの挨拶がありました。

その後 9 時 45 分より 80 分間のシンポジウム(座長：白山靖彦・徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部地域医療福祉学分野教授)が行われました。シンポジウムは白山座長の進行で、「知的障がい者領域における権利擁護」という共通論題の下、2 名のシンポジストからの発題が行われ、意見交換がありました。

シンポジウム終了後は、基調講演が 11 時 10 分より 90 分間のプログラムで実施され、演者に日本赤十字九州国際看護大学教授の増田公香先生をお招きし、「障がいのある人々と権利侵害～実態調査の結果をもとに～」という演題で、増田先生ご自身の体験談や研究を含めて、ご講演いただきました。

本大会では、午前のシンポジウムと基調講演における情報保障に「電話回線とインターネットを利用した要約筆記」を昨年度に続き実施しており、来場者の理解を深めることができたのではないかと考えております。

昼休みに、中国・四国地域ブロックの会員総会が行われ、その後、自由研究発表を 2 つの会場に分けて実施しました。第 1 分科会は「方法・実践」領域の分科会であり 4 題の発表がありました。また、第 2 分科会は「専門職・雇用」の分科会で 5 題の発表があり、第 1 分科会、第 2 分科会と合わせて 9 題の発表となり、各分科会会場では、発表後に活発な議論がありました。

自由研究発表後には、閉会式が行われ、中国・四国地域ブロック担当理事の横山正博先生(山口県立大学教授)の挨拶があり、次回は県立広島大学を引受校として行われることが報告され、大会を終了いたしました。

徳島大会開催にあたっては、準備段階から大会当日に至るまで、様々な方々にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。皆様方からのご助言やご尽力を持って徳島大会を盛会にすることができました。ここに、徳島大会に関係した全ての皆様に感謝の意を記して表したいと思っております。

皆様、本当にどうもありがとうございました。

(佐々木隆夫・徳島文理大学講師、徳島地区担当委員)

### III 2013年度 地域ブロック総会報告

2013年度日本社会福祉学会中国四国地域ブロック総会が、7月6日（土）のブロック大会にあわせ、徳島市のふれあい健康館にて行われた。議長に岡崎幸友会員を選任し、議事は「2012年度事業報告および決算、監査報告」と「2013年度事業計画（案）及び予算」であり、横山正博理事より説明があり、異議無く承認された。続いて報告として、「地域部会委員会委員について」「機関誌『中国・四国社会福祉研究』について」「広報紙の電子化について」「2014年度以降の地域ブロック大会の予定について」「2013年度社員総会及び理事会報告」「独自会計の使途」が取り上げられ、横山理事より説明がなされた。

今後の学会活動において重要な事項としては、ブロックの研究誌『中国・四国社会福祉研究』は、ブロックの研究力量を示すものでもあり、投稿の活発化や、査読体制の充実が望まれる。学会本部では学会事務を外部に委託する方向で進めており、今後の動向を注視する必要がある。「独自会計」とは、学会が社団法人化する以前に、各ブロックで保有していた資金のことであるが、これをブロックの活性化のために有効活用する必要がある。これら諸課題について、ブロックの各会員が問題意識を共有し、学会発展のために努力していく必要性が示される総会であった。

（中国四国地域ブロック事務局長 杉山博昭）

### IV リレーエッセイ

地域の福祉力向上に大学がどう寄与するのか？

～今治市玉川町鈍川地区の「ふれ愛茶屋」を訪れて考えたこと～

8月1日（木）に、愛媛県今治市玉川町の山あい自然豊かな鈍川地区にある地域福祉活動拠点「ふれ愛茶屋」を訪問して来ました。昨年度から、愛媛県松山市北条にある聖カタリナ大学に地域福祉の講師として赴任して約1年半、地元に近いところにある地域福祉活動の拠点を訪れたいと思いながらもなかなか機会が持てませんでしたが、この度は今川市社会福祉協議会玉川支部の協力を得て、ようやくそれが叶いました。地域福祉の教員を名乗る以上、地元の地域福祉の現状を把握し、それに対する見解を持つことはもとより、特に中山間地における地域福祉拠点のあり方について興味を持っていたので、私にとって非常に貴重な学びの機会となりました。

「ふれ愛茶屋」は、鈍川地区215世帯を代表する元気な地元の15名の有志によって平成21年10月に発足しました。当時から鈍川地区は少子高齢化が急速に進行し、小学校、保育所と共に命綱とも言える生活必需品を提供するJAが閉鎖になってしまうという事態が発生しました。それに危機感を持った住民達が自分たちのできることを考えて立ち上がり、地域の人々、または地域を訪れる人々が安心して交流できる集いの場・憩いの場をJAの跡地を利用して立ち上げたのです。活動は、高齢者のふれあいサロン活動といった福祉的な活動だけでなく、地元の農産品や生活必需品を売ったり、地元の食材を使用した料理やお菓子を喫茶コーナーで提供するという「まちおこし」活動も行っており、地域福祉の拠点としての機能だけでなくまちづくりの拠点としての機能を有しています。



ふれ愛茶屋 喫茶コーナー

私たちが訪問した8月1日は、販売コーナーは休みでしたが、喫茶コーナーはオープンしており、そこでボリュームたっぷりのヨモギの入った「まんてん焼き」をいただきながらボランティアの方々に立ち上げから現在までの話を伺いました。立ち上げ当時は、子どもや若い人が少なくなる中、どうやって地域を守っていくのか不安を持っていたとのことでした。しかし、時間をかけて協議を重ねていく上で「地域の人との交流の場が欲しい」という意見が出たことをきっかけに、思いきって自分たちだけで立ち上げてみようというアクションを起こしたそうです。そのために自分たちで一人20,000円を出資して立ち上げ資金にしたそうで、ボランティアグループの会長さんは「思い切って行動してみると、みんなが動いてくれるんです。行政もJAも、色んな人が協力してくれました。行動してみるとというのは大事なことです」と語っておられました。このように活動に色んな人々を巻き込むことができたのは、ボランティアの方々の「地域愛」を周囲が感じ取り、自分も協力したいという気持ちになったのであろうと容易に想像できました。

訪問した時にもう一つ印象的だったのが、自転車ツーリングをしている人が「ふれ愛茶屋」を訪れて、ボランティアの人たちと楽しそうに話している風景でした。今治市はしまなみ海道に自転車道が出来たこともあり、自転車ツーリングで訪れる人が多く、その中には鈍川地区を訪れる人もおり、「ふれ愛茶屋」が憩いの場になっているのを見て取れました。地元の人たちの生活拠点であると同時に、外部の訪問者もオープンに受け入れる内外交流の拠点として機能しているのが良く分かりました。

今回「ふれ愛茶屋」を訪問して頭に浮かんだのは、「大学がこのような地域の福祉力向上にどう寄与するのか」という課題でした。「ふれ愛茶屋」の活動は、地域の活発な住民の人たちによって支えられており、その力は目を見張るものでした。しかし今後、この活動をどう継続し、地域の福祉力向上につなげるのかといった、「持続可能な地域福祉」を達成するには、更なるサポートが必要ではないかという感想を持ちました。そして、自分が近隣の大学に所属する教員という立場から、大学がもっと積極的に関わるべきであるという責任も感じました。大学には若い教員や学生が存在しており、そういう若い「学」の力をこのような拠点を通じて地域に流入させることができれば、地域福祉の発展に貢献できる筈です。例えば、教員が研究というスタンスで地域に入り込んで地域を調査することで、地域に新たな活動の視点を提供することが可能となります。更に社会福祉を学ぶ学生をこのような拠点を訪問させて、学生の視点から拠点を盛り上げる活動を提案して実施すれば、学生にとっては貴重な実践教育の機会となり、地域の活動者は新たな刺激を受けて元気になるというWIN-WINの状況を作り出せる可能性を秘めています。

実際、中・四国の大学の殆どは比較的人口の多い市街地に位置しており、若い学生を地方から吸い上げて地域の福祉力を減退させているのではないかという疑問を持っていたので、大学が積極的に地域に若い力を還元する為にも、「民」「学」協働の拠点のようなものが出来ないかと現在模索中です。私も「ふれ愛茶屋」の方々の「地域愛」に巻き込まれた一人になりそうです。

(聖カタリナ大学 講師 高杉公人)



## V 『中国・四国社会福祉研究』第3号投稿原稿募集

【締切】 2013年10月31日（木）

【執筆要領】 日本社会福祉学会機関誌『社会福祉学』の執筆要領に準じます。  
詳細は会報13-2をご覧ください。

【お問い合わせ】 編集委員会事務局

〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8 吉備国際大学 岡崎幸友研究室  
tel&fax : 0866-22-9209 e-mail : yuki@kiui.ac.jp

## VI 所属先・連絡先変更の登録のお願い

所属先などが変更になった方は、学会ホームページ（<http://www.jssw.jp/>）の「登録情報の変更」を通じて新しい所属先・連絡先をお知らせください。他の地域ブロックから中国・四国地域ブロックに移ってきても、所属先の変更を登録しない限り当地域ブロックからのお知らせが届きませんので、近辺にそのような方がおられる場合は、登録変更をするようにお声掛けをお願いいたします。

## VII 中国・四国ブロック部会委員会名簿

2013年9月現在

役職	氏名	所属	備考	代議員
参与	岡崎 仁史	広島国際大学		○
委員長	横山 正博	山口県立大学	中国・四国地域 ブロック担当理事	○
副委員長	岡崎 幸友	吉備国際大学	機関誌編集委員長	○
事務局長	杉山 博昭	ノートルダム清心 女子大学	会計担当（主） （岡山事務局）	○
運営委員	加登田恵子	山口県立大学	研究担当（副） （山口事務局）	○
運営委員	金子 努	県立広島大学	機関誌担当（副）	○
運営委員	片岡 信之	四国学院大学	広報担当（主）	
運営委員	木村 敦子	広島文教女子大学	広報担当（副）	
運営委員	佐々木 隆夫	徳島文理大学	ブロック大会担当	※
運営委員	高杉 公人	聖カタリナ大学	広報担当（副）	
運営委員	長崎 和則	川崎医療福祉大学	機関誌担当（HP担当）	
運営委員	八重樫 牧子	福山市立大学	研究担当（主）	
監事	住居 広士	県立広島大学		○
監事				※※

※次回部会委員会で、来年度の中国・四国ブロック大会引受校の県立広島大学より、現委員に代わって選出予定。

※※次回部会委員会で、1名選出予定。